

コミュニティバス「おでかけ号」の利用状況について

いつもコミュニティバス「おでかけ号」をご利用いただき、ありがとうございます。

路線バスが走っていない地域を対象として、市では平成18年10月から平成19年3月まで試験運行を行い、平成19年4月から本格運行を開始しました。

運行開始から半年が経過しましたので、これまでの利用状況をお知らせします。



利用状況について

平均乗車数は、全体的に減少しています。なかでも、小原線（国東町）、油留木線（安岐町）、鬼籠・櫛海線（国見町）の減少が大きくなっています。特に小原線（国東町）は半分近くまで減少しています。半面、志和利線（武蔵町）は15路線で唯一、わずかですが増加しています。

また、松ヶ迫・小ヶ倉線（武蔵町）、向田・浜陽線（国見町・国東町）、赤松線（国東町）、吉松線（安岐町）は、前年度から乗車数が多いまま推移しているのに対し、国見町方面の路線は、乗車数が少ないまま推移しています。

しかしながら、利用状況は、運行日の天候（猛暑や梅雨、台風等）や道路工事による路線変更等が大きく影響したことや、利用者が減少すると予想できたお盆や祝日も運行していたことから、減少幅は最小限であったと考えられます。今後、半年間の利用状況の推移を確認しながら、地域別にコミュニティバス等の公共交通が必要かどうか判断していきたいと思えます。

路線バスとコミュニティバス

路線バスは平日（月から金）は毎日運行していますし、土・日曜日にも運行している路線もあります。また、便数も1日当たり少ない路線は1往復、多い路線は3～4往復しています。

それに比べコミュニティバスは、それまで路線バスが全く走っていなかった地域を週1回1.5往復運行しています。

運賃は、コミュニティバスがどこまで乗っても1回100円（均一運賃）であるのに対し、路線バスは初乗り運賃が140円で、長く乗れば乗るほど運賃が高くなり（距離制運賃）、不公平だという声も聞かれますが、路線バスが運行している地域の方は、ほぼ毎日バスに乗れる利便性があります。

路線バスは今？

路線バス利用者は年々減少しています。利用者が減少すると、バスを運行する事業者は不採算路線を減便します。すると、利便性が低下することにより、さらに利用者が減少するという悪循環の繰り返しです。その結果、国・県、または市の補助金無しでは運行を維持できない不採算路線が大半を占めています。

路線バスとコミュニティバスは、どちらも大切な「地域の共通の財産＝公共交通」ですし、公共交通の利用促進は地球温暖化防止の有効な手段でもあります。

行政と事業者が協働してバスを「走らせる」時代が到来しつつあることを
ため積極的に公共交通を利用しましょう。